

東京・東銀座

大人の隠れ家店並ぶ

高級ブランドショップが華やかに並ぶ銀座の中心部から少し離れ、昭和通りを越えた地下鉄東銀座駅(東京都中央区)かいわいは、庶民的な雰囲気の中に大人の隠れ家のような店が並ぶ。

2013年に新装オープンした東銀座の顔、歌舞伎座から出発。すぐそばの「Flor de cafe 銀座樹の花」は故ジョン・レノンがオノ・ヨーコ夫人とともに訪れた喫茶店として有名だ。1979年、なんとオープン4日目のことだったという。店主の成沢弘子さんは「静かに顔を見合わせながらお話しして

レノンが訪れた喫茶店も

いらっしやった」と印象を語る。店内には2人のサインが飾られる。

路地裏を進むと、老舗コロッケ店や関西風のたこ焼き店に列ができています。さらに細い路地をのぞくと小粋なビストロや落ち着いた和食店、ア

ンテイク食器店…と探検が楽しい。面廊も目につくのは銀座ならでは。中でも「銀座レトロギャラリー MUSEE」はレング

風スタイルの重厚な外観が目を引き。運営する川崎力宏さんは32年に建てられたビルを取り壊す



築80年以上のビルを改装した「銀座レトロギャラリー MUSEE」



ジョン・レノンが訪れた喫茶店「Flor de cafe 銀座樹の花」



「銀座酒ギャラリー 麹屋三四郎酒舗本店」で名酒を薦める藤田黎一さん



たこ焼き店「銀座ふくよし」では、生地に濃いかつおだしを利かせ何もつけずに食べる「そのまんま」が人気。



「銀座ふくよし」の何もつけずに食べるたこ焼き「そのまんま」

僕は普段から竹カゴを愛用しています。房総の農家のお年寄りが作ったものですが、布で編み込まれた肩あての部分に「連雀」と呼んでいたそうです。

中世から近世にかけて各地の市を旅して回った人たちは、連雀のついた運搬具を持っていたので連雀商人とも呼ばれ、連雀は自由の象徴でもありました。現在では物珍しく見られ



山伏雑記

れることもありますが、とても気に入っています。

愛用の竹カゴ



肩に掛けて使っている愛用品の竹カゴ

東京で受けた思わぬ善意

で聞いてくれません。「私は留学生の手助けをする仕事をしています。困ったことがあったら連絡を下さい」と差し出された名刺には有名企業の名が書かれていました。僕はだんだんとおじさんの善意を裏切るのが心苦しくなり、話を合わせることにしました。留学生になりきり、たどたどしい日本語で架空の故郷にある美しい山の思い出

いた。50歳か60歳のおじさんに「私はどうして話しました。